



サッカーで強まる絆

八幡平市 東北中学生クラブ交流

そろいのTシャツを着てサッカーバレーを楽しむ選手たち

東北クラブユースサッカー連盟(TCY)加盟の中学生クラブチームによる第1回TCY復興支援サッカーフェスティバルは29日までの3日間、八幡平市の安比高原ASPASAサッカー場で開かれている。沿岸被災地を含む東北のチームの技術向上と交流を図る狙い。28日は交流イベントを行い、選手がボールを通じて心を通わせた。東北6県の16チーム、約400人が参加

し予選リーグと順位別トーナメントで交流試合を行っている。

交流イベントにはボールと「絆」の文字をプリントした黄色いTシャツを着て参加。工藤和夫大会競技委員長は「サッカーを通じて絆を強めよう」とあいさつし、FC釜石U-15の佐々木大成主将(甲子中3年)が「多くの人に励まされサッカーを続けられることを忘れない」と宣言した。

選手はサッカーバレーやリフティングなどに挑戦。コバルトレ女川ジュニアユース(宮城県)の佐藤諒主

将(石巻市・門脇中2年)は「(サッカーバレーは)普段しないので楽しい。対戦相手の良いところを練習にも取り入れたい」と刺激を受けた様子だった。